

平成29年度鳥取市政懇話会議事概要

日 時：平成29年2月9日（金）午後3時～4時30分

場 所：鳥取市役所本庁舎6階 全員協議会室

出席者 【鳥取市政懇話会委員（15名）】

岡村正徳委員、景下明美委員、河毛寛委員、佐々木千代子委員、杉野開登委員、
田中仁成委員、田中道春委員、田淵裕章委員、西山信一委員、林由紀子委員、
藤縄匡伸委員、前田伸一委員、松下稔彦委員、山口朝子委員、山脇彰子委員

【鳥取市】

深澤義彦市長、羽場恭一副市長、河井登志夫総務部長、田中節哉中核市推進局長、
田中洋介企画推進部長、高橋義幸企画推進次長、大野正美経済観光部次長、
坂本宏仁経済・雇用戦略課長

1 開会

2 市長あいさつ

本日は、平成29年度鳥取市政懇話会に御出席をいただき、ありがとうございます。

委員のみなさまにおかれては、日頃より鳥取市政推進に御理解を賜り感謝申し上げます。

御案内のように、平成29年11月27日の中核市指定の政令交付により、鳥取市は4月から中核市に移行することとなった。中核市移行に合わせ、近隣自治体と連携中枢都市圏を形成し、鳥取市はもとより、圏域がこれからも更に素晴らしく魅力のある圏域であり続けるように一緒になって取り組むこととしている。中核市移行は将来を見据えて、これから鳥取市が更に活力ある魅力あるまちであり、この圏域がそのような圏域であり続けられる一つの礎となる取り組みである。新年度、円滑に移行できるよう職員一丸となり一生懸命頑張っているところである。

また、本市では、これまでも地域経済を取り巻く環境の変化に対応すべく、いろいろな取り組みを行ってきた。本年度で計画期間を終える「第3次経済再生雇用創造戦略」に替わる、「(仮称)鳥取市経済成長プラン」を策定し、本市はもとより、この圏域の中規模企業・小規模企業の振興を、また経済の活性化を図っていこうとしているところである。

これらについて担当部局より説明させていただきたい。やがて新年度を迎えるが、委員のみなさまからいただいた御意見、御提案を今後の鳥取市政に限りなく反映させたいと思っている。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

3 会長あいさつ

○藤縄会長

本日は、お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。

この懇話会は、平成28年11月にスタートして、今回で2回目になる。本日のテーマは「市政の進展に向けて」で、「中核市移行」、「麒麟のまち圏域における取組」、「地域経済と中小企業対策」の3項目である。いずれも、鳥取市の発展のために、大変重要な取り組みであると認識している。

あらゆる分野からお集まりのみなさまに活発な御議論をいただきたい。

4 議事

市政の進展に向けて

(1) 中核市移行に係る進捗状況について…資料1 (事務局説明)

(2) 「麒麟のまち」圏域における取組について…資料2 (事務局説明)

○松下委員 中核市に移行することでどう変わるのか、市民の方にどう説明すれば分かりやすく喜んでいただけるのか。説明の方法をお聞きしたい。

○田中中核市推進局長 中核市移行は、地方分権の推進が根底にあり、これまで県で行ってきた業務を市民に一番身近な基礎自治体で行えるようになる。鳥取市としては、福祉保健など市と県の両方で行っていた業務を全て市で行えること、地域や市民の要望に対し市や県で対応していたものが全て市で対応できること、山陰東部圏域としてステータスアップに繋がりあらゆる意味で産業発展の拠点になっていくこと等を説明している。

○林副会長 中核市移行に伴う職員体制について、県から派遣・身分移管を受ける職員の内訳は。また、今後、人材を養成すると説明があったが、どのように養成するのか。

また、2年間は、暫定施設のさざんか会館で業務を行うとのことだが、人数や業務が増えるので難しいのではないかと。改修等で対応できるという理解でいいか。

○河井総務部長 派遣・身分移管の職員45人の内訳は、県の職員の身分のまま派遣いただく方が33名、鳥取市の職員に身分移管される方が12名を予定している。そして、派遣いただく方を年次的に鳥取市職員に身分移管していく計画である。職員の育成については、県の御理解、御協力もいただきながら行っていきたい。

○田中中核市推進局長 施設については、パンフレットに記載のとおり、さざんか会館2階に総務企画課、障がい者支援課、健康支援課の3課を配置予定であり、既に改修を終えている。相談室センターのスペースも確保できたが、倉庫が不足しているため、駅南庁舎の地下等を活用し対応していくこととしている。

○林副会長 さざんか会館の2階について、現在、使用している人に不自由はないか。

○田中中核市推進局長 総務企画課と障がい者支援課が入るスペースは、鳥取市ボランティアセンターと登録団体が使用していたが、1階に活動スペースを確保した。また、健康支援課のスペースは、機能回復訓練室があったが別の場所に移動している。関連して5階のロビー部分を活用して会議室を2室、設置している。極力不自由のないように努めた。

○田淵委員 DMO麒麟のまち観光局に関連して、広域観光振興には可能性が秘められていると思う。鳥取市として観光振興に対する明確な指針、今後のビジョン・展望を聞かせてほしい。

○高橋企画推進部次長 昨年3月に1市6町で「鳥取因幡・北但西部観光グランドデザイン」を策定している。その中で、「生活圏・商圏・文化圏、新たな観光圏の連携が実現」、「訪れた人々が「美しさ・温かさ・うまさ」に感動する地域」、「住民が主体となり様々な交流を通じて、創りあげる笑顔あふれる地域」の3つをビジョンとして掲げている。このビジョンを目指し、1市6町で連携し取り組んでいくこととなる。また、連携中枢都市圏ビジョンにもDMOに関連する事業を盛り込むこととしており、いろいろな事業に連携し取り組んでいく。

○田淵委員 観光振興に期待している。鳥取市の一番の観光資源は、鳥取砂丘と砂の美術館であるが、どのように広域連携していくのか具体化・明確化してほしい。

○田中道委員 傘踊りの祭典と重ね合わせて資料を読んだ。麒麟獅子舞と傘踊りを車の両輪として取り組むことが出来ないか提案をしたい。

○深澤市長 御提案という事で受け止める。因幡の傘踊りは素晴らしいと思う。様々な地域で伝承されており、いろいろな機会に魅力を紹介していきたい。

○田中仁委員 中核市移行について、鳥取市が一生懸命、周知等をしているのは承知しているが市民の関心が低いと感じる。説明の文書を見てもあまりにも量が多く、すぐには理解できないところがあると思う。CATV、市報等で一つひとつ丁寧に分かりやすい説明をした方が、中核市というものが暮らしの中で市民に定着すると思うので、市民へのアピールという面で考えていただきたい。連携中枢都市圏について、多方面にわたって項目があるが、特に力を入れたいところを打ち出した方がよりアピールが出来るのではないかと。個人的にはDMOを中心とした観光施策だと思う。どのように実施していくのか鮮明に色濃く出すと、市民にとって分かりやすくなると思う。また、鳥取市経済成長プ

ラン（案）の中でも観光産業は柱だと思うので、観光を大きな柱としてアピールしていただけたらと思う。

○**杉野委員** 前回の市政懇話会の中で、「麒麟のまち」を対外的にPRする上で、麒麟という漢字は、他の地域の方には読めないなので、ふりがなをふってはどうかと提案があったがどうなったのか。また、麒麟のまちのホームページを見て、その中にアプリがありダウンロードを試みたが、内容がホームページとほとんど一緒で相違点がクーポンの有無くらい。もっと有効活用すべきである。

○**高橋企画推進部次長** ふりがなについては、協議した結果、漢字のみで進めることとなった。アプリの件は、御指摘のとおりホームページの内容がメインになっているので検討したい。クーポンやイベントのお知らせをするようにしているが開発途上である。

○**河毛委員** 地域連携DMO麒麟のまち観光局の取組は、行政の関わりもあるが、市民が作っていく感覚を持ってほしい。企業でも個人でもメンバーに入れる。様々な意見を出していただき御協力をお願いしたい。

5 報告

地域経済・中小企業対策について…資料3（事務局説明）

○**田中仁委員** 経済団体や主要企業に出向きヒアリング等をされる予定はあるか。

○**坂本経済・雇用戦略課長** 経済団体については、鳥取市中小企業・小規模企業振興条例の施策の進捗管理を行う会議に加わっていただいている。鳥取市経済成長プラン（案）については、意見をいただけるように送付している。素案を策定する経過で経済団体に出向き、意見をいただいている。

○**河毛委員** 誘致企業は必要だと思うが、地元で働く人間が減っていることも聞く。誘致企業に対して、何人かは本社から鳥取市にきていただくようにできればいいと思う。鳥取市民になっていただき、地域を盛り上げてほしいと思う。

○**大野経済観光部次長** 鳥取市としては、そういう視点からも企業誘致を行っている。労働力不足に加え人口も少ないので、外からいかに人材を確保するかが重要となる。現在、県外から従業員が一定数来ている。一部の企業は、増設に併せ、本社から人員を確保しようと考えている。商工団体とも交流を考えていく必要があると思っている。新たな取引やマッチングに期待している。

○**前田委員** P31に、「市職員が参画し」とあるが、市職員が強力なバックアップをすることは大切だと感じている。行政職員と仲間になって、指導していただくことは、鳥取市経済成長プランを成功させる鍵であると思う。

○**山口委員** P16の「女性の社会進出の推進」が重点課題になっている。そのためには、保育園や児童クラブの充実が一番の課題である。少し前も保育士不足で有効求人倍率が2.5となっていた。給料や労働の大変さだけでなく、保育士の仕事の素晴らしい部分が知られていない。もっと多くの方に保育士の仕事の素晴らしさ、やっている人間もモチベーションが高く一教育者であることを行政にPRしていただきたい。そうすれば、資格を持っている方が自信をもって現場に帰ってくると思う。

○**深澤市長** 保育士不足は全国的にも課題になっている。保育士はもとより、どの仕事でもプライドをもって一生懸命していると承知しているので、いろいろな機会を捉えて紹介していくのは重要なことだと思う。

○**西山委員** 人材確保について、P18の6番目に「大学生地元就職率」の現状が20.9%、目標が25.6%以上とある。昨年の公立鳥取環境大学の地元就職率は23%である。公立になって2回目の卒業生である。入試応募者も増えており、特に経営学部が多くなっている。地元の応募者も昨年より増えている。また、昨年の地元就職者は、県内学生数より県内就職者数の方が多く、地域指向の教育の結果だと考える。ただ、今後の卒業生は県内出身者の割合が少なくなっている。今年の卒業生は県内出身者が12%程度で地元就職率も下がると見込んでおり、県内の入学者を増やすことが必要と考える。PRを強化したいと考えているので、関係のみなさまにも協力をお願いしたい。

6 閉会

○深澤市長 この会議に出席いただき、さまざまな御意見や御感想をありがとうございます。
本市は、いよいよ30年度に中核市へ移行し新たなスタートを切ることとなる。まだまだのびしろ、ポテンシャルがあると考えている。みなさまと一緒に、現状を理解しながら、将来に向け力強く前進していく年になることを願っている。引き続きの御指導・お力添えをお願い申し上げます。